



くまののみや

令和2年4月

第116号

出雲一宮
熊野大社
崇敬会

日常の五つの心

1. 「ハイ」という素直な心。
2. 「すみません」という反省の心。
3. 「オカゲサマ」という謙虚な心。
4. 「アリガトウ」という感謝の心。
5. 「ワタシガシマス」という奉仕の心。

本年も御櫛祭みくしさいが間近です。祭りはスサノオ大神を祀るご本殿で奉仕されますが、途中のご本殿から脇に鎮座の摂社のイナダ姫を祀る稲田神社へ御櫛（神櫛）をお供えする特殊神事が含まれます。

この祭りは出雲神話の「スサノオ大神が八岐大蛇を退治される際、イナダ姫を御櫛みくしに変化へんげさせて自らの髪に刺し、ご結婚なさった」（古事記）という伝承に因んでいます。

御櫛祭「御櫛奉獻」

熊野大社宮司
熊野 高 裕

当社に残る資料を調べてみますと、先ず御櫛祭の初見は明治初期であり、明確なものはありませんが、明治四十五年（一九一三）資料の祭典集綴り・御櫛祭祝詞に「御婚坐る故事以て」とあり、その祝詞解説には「スサノオ大神の御代に后稲田姫とご結婚の際、自ら御櫛をつくり授けられた故事により、御櫛を摂社稲田神社へ献じ結婚を奉祝する祭事である」とあります。

しかし当社では、その大元の神話は神話として現在、スサノオ大神が八岐大蛇を退治された時、イナダ姫とご結婚を前に御櫛を結納のシルシとして贈られた」と解釈し、祭りはご結婚を奉祝するも、結納として御櫛を奉獻するカタチで扱ひ、斎行しております。

この神話の新しい解釈は、歴史的にいつ頃どのように始まったのかと思います。

そしてそこから時を隔て昭和六年（一九三二）の当社由緒書には「スサノオ大神が簸川上で大蛇を平らげられた時、イナダ姫に結納として御櫛を授けられ、ご結婚あそばされた」とあります。

少ない資料ですがこれから考えますと、どうもその変化の時期は明治末期から昭和初期の間といえそうです。そしてその変化を見せた理由ははっきりしませんが、敢

えて想像を逞しくしますと、当時の世の結納事情、即ち結婚前に婚約のシルシを贈る慣習と重なり、そこから祭りで御櫛を贈ることが「結納」と変じていったように思えます。今日のこの祭りの意味解釈はここから続いていると思います。そもそも結納とは、我が国で古くから行われ、結婚を確約し結婚生活の準備の資金や織物、酒肴等の品物を取り交わすものです。この祭りの結納という解釈は、当時の我が国伝統の結婚観や明治期に入り広く知られてきた指輪を贈る西洋の結婚観等、これらの影響下で次第に考えられていったのではと思います。

御櫛祭を前に、あれこれとこの祭りについて歴史を中心に考えてみました。私達はスサノオ大神とイナダ姫がご結婚になり二柱で常に世の幸栄えに奉仕されるお姿を拝し、皆それぞれに各自の道を精一杯歩んでいきたいものです。



春のおおみまつり 御 櫛 祭



四月十三日(月曜日)午前十時斎行

春のみまつり・御櫛祭四月十三日(月曜日)午前十時。

ご案内

〔氏〕 子・崇敬会員・篤信者の皆様方には、熊野大神さまとのご神縁を深められ、ご健康でお幸福な日々をお過ごしのこととお慶び申し上げます。

日頃、熊野大神さまのご神徳顕揚のため働きかけを戴き、ご社頭は年々に賑い愈々ご神威が広まりつつありますことはご同慶の至りでございます。

〔大〕 神さまの御心を心とした「御櫛祭」を仕え奉り、ご守護に感謝し、世のため人のために尽くす心を養い、明るい社会づくりに寄与したいものと存じます。

熊野大社宮司 熊野 高 裕
熊野大社崇敬会会長 岡崎 朝 臣
熊野大社 氏 子 会
氏子、崇敬会員、篤信者各位

ご報告

本年は先般の政府による「新型コロナウイルス感染症対策の基本方針」を受け、祭典は神職のみによる無参列奉仕、予定しておりました諸神事、神賑を取りやめることと致しました。

伝統の祭事であり、まことに残念ですが事情に鑑みて致し方のないことと判断した次第でございます。

何卒ご理解を賜りますようお願いいたします。

ご祈念のご案内

生命を与えて下さって日々ご守護を戴いている大神さまへ感謝の心をささげ、更に新しい生命力・御霊力を戴き、めまぐるしく変化していく現代社会を心感うことなしく正しく生きぬいていくことが出来ますように、春のおおみまつりにご祈念のお取次ぎをいたしております。お申込み下さい。

一、ご祈念料 伍千円以上
(一つの願いごとにつき五、〇〇〇円以上です)

一、願いごと

家内安全。商売繁昌。良縁。会社発展。従業員安全。厄除。交通安全。五穀豊穰。安産。病氣平癒。進学成就。諸願成就。海上安全。大漁満足。その他ご希望の願いごと。

一、ご祈念を希望されます方は同封の振替用紙に、ご住所、ご氏名、ご年令、ご祈念料を明記してお申込み下さい。

一、ご祈念をしたお守はお送りいたします。又ご参拝の際は受付所にお申し出下さい。

尚、電話、ファックス、又ご希望の日、何時でも受付いたしております。当社へお問合せ下さい。

令和二年 祝年祭

令和二年祝年祭世話人会代表 山根紀彦

令和二年祝年祭の式典を、令和二年一月十九日に無事執り行うことができました。熊野大社の関係者様、並びに熊野地区の皆様方にご協力を頂きましたことを、世話人会代表といたしまして厚く御礼申し上げます。

この祝年祭は、熊野地区の諸先輩方から脈々と受け継がれ、八十有余年の歴史を刻んできた崇高な式典の一つであります。この式典の代表という大役をお引き受けさせて頂きました。その重責が想像以上であったことは、式典が終わってから後を追って感じる次第でありました。式典に向けた準備は苦勞もありましたが、無事に執り行うことができましたという安堵感と、貴重な経験をさせて頂いたという感謝の気持ちと充実感を、日を追うごとに感じている次第であります。

ち合わせを実施し、全員で協力して準備を進めて参りました。この祝年祭を通じて、世話人同士での絆ができたことも、この行事があつたからこそだと改めて感謝いたしております。式典当日は、お陰様で天候にも恵まれ、祝い年の方、計百二十名の御祈念をさせて頂きました。至らぬ点がありましたことにつきましましては、代表として反省せねばならないと感じておりますが、式典全体が無事に執り行うことができましたことは、世話人全員がそれぞれの立場、役割で責任を持ち取り組めたためであると感じております。また、前年の世話人会の方々からのご助言や、準備や当日の受付のご協力を頂いた次の方の方々にも紙面をお借りして改めて御礼申し上げます。

少し話は変わりますが、祝年祭の後に、天狗山に登りました。この天狗山の頂上より少し下の所に昔の熊野大社、いわゆる元宮があり、改めてこの場所にお参りしたいの思いと、頂上からの眺めを見たいと思ひ登りました。氏子会の関係で、元宮までは登ったことがあったのですが、頂上に登ったことは無く、日ごろ八雲町内からはもちろん松江市内からも天狗山が見えることから、木々の葉の無いこの時期であれば、いろいろなところが一望できるかと考えていました。頂上からは、日吉地区や、風土記の丘周辺、だんだん道路や、宍道湖、東には大山が望め、古くからこの山を起点に歴史的な繋がりが有つたのではないかと想像し、これから調べていきたいという思いに至りました。最後にありますが、この祝年祭を通じて、多くの方々に支えられて生きているということを感じ、その有難さを改めて胸に刻んだ次第であります。また、この地域の歴史的な奥深さも、地域に住む全員の宝であり誇りであると感じました。これから先も、この祝年祭が脈々と受け継がれるとともに、地域の皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

熊野大社崇敬会 入会のおすすめ

熊野大神の御神徳を奉戴し、敬神崇祖の誠を致し健全なる国民精神の高揚に努め広く国家社会の繁栄に寄与するを目的とし、その達成のため

- ①熊野大神の御神徳発揚の為祭典、神事、行事及び諸建宇整備と保持に奉賛
- ②会員相互の親睦を計る為機関紙を発行。
- ③必要とする事業を行う。

一、会費

個人会費(年額)参千円以上
団体会費(年額)五千円以上
一、待遇

- (イ)会員誕生日は健康と繁栄和楽を祈願、日供祭は全会員の安寧を祈願します。
- (ロ)春秋大祭にご案内します。
- (ハ)新春神迎の「御神符」「干支の絵馬」をお届けします。

(ニ)会員章を差し上げます。
熊野大神さまから幸福の縁が戴かれますようご入会のご案内を申し上げます。

お知り合いの方々へのご勧誘をもお願い申し上げます。

節分祭

—豆撒き神事—

二月三日



午前十一時、節分祭祈禱世話人、氏子崇敬者が参列し、節分祭厄除招福諸願成就祈禱祭を斎行した。午後二時、多くのカメラに囲まれながら舞殿より厄除招福を祈念した魔除けの矢が「天」と「地」に射放たれたのを合図に福男・年男の皆さんが袴姿で豆撒き神事を行った。

今回は映画のロケ地に上の宮跡が使われた関係で御縁のあった錦織良成映画監督にも福男として奉仕いただき、団体で参拝された人達や個人で参拝された方など約千人が舞殿を取り囲み、大神さまか



ら福運を戴こうと一斉に撒かれる福豆餅を拾いあった。

福男・年男芳名(順不同)

- 一、島根県 知事 丸山 達也殿
- 二、松江市 市長 松浦 正敬殿
- 三、映画 監督 錦織 良成殿
- 四、島根松江地域建設協会会長、
カンテック工業株式会社社長 金津 任紀殿
- 五、山陰レレビジョン株式会社社長 石原俊太郎殿
- 六、松江市議会議員 石倉 徳章殿
- 七、熊野大社崇敬会会長 岡崎 朝臣殿
- 八、熊野大社氏子会会長 石倉 憲昭殿
- 九、熊野大社遷曆氏子代表 石倉美智雄殿
- 十、熊野大社宮司 熊野 高裕

以上の方々には豆撒き神事をご奉仕戴きました。ありがとうございます。

建国祭

二月十一日 午前十時



役員、氏子、崇敬者、霊友会の皆さんが参列し、建国祭を斎行した。

修祓の後、国歌「君が代」を斉唱、祝詞を奏上した後、国の誕生を祝し「紀元節の歌」を奉唱した。そして氏子会長をはじめ、参列者の代表の方々が玉串を捧げて拝礼し、皇室の弥栄、国家の繁栄、国民の幸福、世界平和を祈り万歳三唱をして祭典を終了した。

祈年祭

二月十七日 午前十時



役員、総代、氏子崇敬者多数が参列し、祈年祭を斎行した。

修祓の後、今年の五穀豊穰、諸産業の発展、皇室の弥栄、国家の繁栄、国民の幸福を祈った祝詞を奏上し、参列者の玉串拝礼が行われ祭典を終了した。
営農家の皆さんは豊作を願い、大神さまのご加護のもと美味しいお米の生産に努力しますと真剣な祈りを捧げた。



今上天皇が御即位されてから初めてとなる天長祭が氏子崇敬者の皆さんの参列のもと齋行された。参列者を清めた後国歌「君が代」を斉唱、祝詞を奏上し参列された方々が玉串拝礼を行って今年六十歳となられ還暦という人生の節目を迎えられる天皇陛下の御誕生の日を祝い、天皇陛下の健康長寿を願うとともに皇室の弥栄、国家の繁栄、国民の幸福、世界の平和を祈り万歳三唱をして祭典を終了した。

天長祭

二月二十三日 午前十時

御狩感謝祭

三月二十九日 午後二時



令和になってから初めての御狩感謝祭が鳥根県猟友会会長細田信男氏をはじめ多くの猟友会会員の参列のもとに齋行された。

大麻で参列者を祓い清めた後参列者全員で国歌「君が代」を斉唱し、宮司が祝詞を奏上した後、参列された方々が大前に玉串を捧げて大神さまのご守護によって令和になってから初めての御狩も無事に終了したことに感謝を表し、鳥獣の霊を慰め五穀の豊穰をも祈った。

防火訓練

一月二十六日 午後二時



暖かな日差しで多くの方がの参拝され、カメラを構える中、熊野大社の自警団である「天狗の会」の皆さんが恒例の防火訓練を行った。消化設備の点検の後、境内と意宇川においてポンプの操作手順の確認と機械操作の確認を兼ねた放水訓練を行った。本年も地元の消防団である松江消防熊野分団熊中団が参加して、合同での防火訓練となった。この訓練は毎年、文化財防火デーに近い日曜日に行っている。

四・五・六・七・八・九月のおまつりの日

- 四月 一日 早旦祭・奉賽祭
十三日 御櫛祭
春のおおみまつりです。午前十時より齋行。
- 十五日 月次祭・奉賽祭
- 二十九日 長寿祭
- 五月 一日 早旦祭・奉賽祭
- 十五日 月次祭・奉賽祭
- 二十四日 元宮祭
- 六月 一日 早旦祭・奉賽祭
- 十五日 月次祭・奉賽祭
- 三十日 夏越祭(大祓)
- 茅の輪神事とも申し、茅で作った大きな輪が随神門に立ちます。これをくぐることによって心身のけがれ、わざわいが祓い除かれて健康で幸福な日々をおくることが出来ます。お誘い合せの上ご参拝下さい。
- 七月 一日 早旦祭・奉賽祭
- 十五日 月次祭・奉賽祭
- 八月 一日 早旦祭・奉賽祭
- 十五日 月次祭・奉賽祭
- 十八日 熊野ふるさとまつり
- 九月 一日 早旦祭・奉賽祭
- 十五日 月次祭・奉賽祭

巫女交代祭

三月二十日 午前十時三十分

伶人、舞講師、小学生巫女、中学生巫女、巫女父兄が参列して入学卒業、進級があるこの時期、毎年恒例の巫女交代祭を斎行した。修祓、祝詞奏上に次いで退任の小学生巫女の桑原小百合さんと須

山優花さんは「幣舞」を、中学生巫女の坂本小春さんと白鹿鹿いさんは「浦安の舞」を立派に舞い納めた。退任新任の巫女、舞講師らが玉串を奉奠してこの一年間無事に巫女舞が出来たこと、また今年も元気に巫女舞が奉仕できますようにと祈りを捧げた。退任巫女に感謝状と記念品を授与し、新小学四年生の糸原叶望さ

献 詠

松江短歌の会

耳鳴りを「頭鳴り」と正しく言われてもやっぱりこれは耳鳴りである
 生まれし地を美しきと思ふ面映ゆさ春の水照りを浴びて佇む
 桜餅ありますと旗を掲げたる菓子屋の店先おんぼらとして
 父を覚えぬ弟と断片の浮かぶわれと父を語るも稀に老いたり
 日帰りの旅行のごとし退院の夫と並びて食べるラーメン
 春めける光の中の主なき庭に紅梅我をな忘れそ
 こわごわと歩く雪道街の角出前の自転車横ざりてゆく

米子市 青山 侑市
 松江市 安部 洋子
 安来市 岩田 明美
 安来市 川井 恭子
 松江市 酒井 悦子
 松江市 日野 和久
 松江市 福島 伸子

立志お祝いのまつり

三月二十日 午前九時

この祭は、当社氏子会の事業として氏子中の中学二年生を対象に行い、昔の元服の年齢に達したことを祝い、大人としての自覚を促し、世のため人のために働くようにしっかりとした志を立ててもらう趣旨で行っている。祭典後、境内にて立志記念植樹を行った。今年は該当者が全員不参加のため記念旅行は中止した。



んと藤田羽夏さんに新任巫女の辞令を授与し、祭典を終了した。祭典終了後は社務所にてさやかな茶話会を行い、これまでの思い出や今後の目標を話したりと終始和やかに幕を閉じた。四月より下記の方々にて祭典時の巫女舞を奉仕して戴きます。宜しくお願い致します。

幣舞	小学四年生	糸原 叶望さん
〃	小学五年生	藤田 羽夏さん
〃	小学六年生	安達 楓梨さん
〃	小学六年生	橘 咲穂さん
〃	小学六年生	岩田 潤奈さん
〃	小学六年生	森本 凜夏さん
浦安の舞	小学一年生	桑原小百合さん
〃	小学一年生	須山 優花さん
〃	小学二年生	安達 多恵さん
〃	小学二年生	恩田 璃乃さん
〃	小学三年生	近藤美里花さん
〃	小学三年生	矢壁 舞音さん

